

## 【本日のアンコール】

### ヴォイツェフ・キラール作曲 『オラヴァ』

(Wojciech Kilar 1932.7.17～ : Orawa)

1932年、ポーランド(現在はリトアニア)のルヴフに生まれ、ピアノと作曲をカトヴィツェの音楽学校で、後にパリで、ナディア・ブーランジェの元で学んだキラール。彼はアヴァンギャルド運動にも身を置いたが、1970年代頃から、ポーランドの高地の民俗音楽と自然からのインスピレーションを取り入れ、ロマン派と現代音楽、両方の音楽語法を使った作品を書くようになった。彼の代表作とされる『クシェザニ』や『コンチエレッツ 1909』(カルウオヴィチの人生と芸術を讃えた作品。コンチエレッツは、カルウオヴィチが命を落としたタラ山脈の高峰の1つ。)とともに、『オラヴァ』もこうした作品の1つである。なお彼は、『戦場のピアニスト』などの映画音楽でも有名で、フランシス・コッポラ、ロマン・ポランスキらの映画に音楽をつけている。

タラ山脈の西側に位置する地域“Orawa”をタイトルにもつこの曲は、ポーランド高地の民俗音楽グループにインスパイアされ、ポーランドのポドハレ地域特有の音階による旋律とリズムが取り入れられた作品である。

キラールがカルウオヴィチを讃える作品(前述の『コンチエレッツ 1909』)を書いている事から、この作品をアンコールに演奏させていただいたのだが、選定にあたり1つの事実が発覚した。それは今から15年ほど前、アグニエシュカ・ドウチマル指揮アマデウス室内管の来日公演の時、指揮の大浦氏と代表の伊木がそれぞれ仙台と東京でこの作品を聴き、衝撃を受けていた、というもの。指揮者と代表の縁を感じ、また当団の指揮をお願いする事も運命づけられていたのか?と、少し大げさながら考えてしまった次第である。

オーケストラ 《エクセルシス》